

わがまち再発見!!

対馬市教育委員会 文化財課

☎0920(54)2341

対馬各地の地名(大字編)

【上対馬町舟止】

『津島記事』によると、古くは「舟止」と記述していたとあり、古文書にも「舟止・舟思」と記されたものが残っています。語源は『紀事』によると、湾が広く、舟を多く停泊させるのに適しており、上原東辺第一の港であったことから、舟止と名付けられ、のち舟志という表記に代わっていったと伝えていきます。

【上対馬町五根緒】

『津島記事』によると、語源は新羅から帰国する雷大臣命(いかりのみこと)の案内役であった磯武良(いそむら)が五根緒地域に立ち寄ったため、御入浦と名付けられたと伝えていきます。『紀事』でも、通称として吾祢宇と呼ばれていることが記録されており、現在でもごにゅうあるいはごにょうと呼ばれていることがあります。

(※先月号の玖須の項で、雷大臣命の説み方について「いかつちのおおみのみこと」としていましたが、正しくは「いかつちのおみのみこと」として訂正いたします。)

【上対馬町琴】

『津島記事』によると、神功皇

后が武内宿禰に琴を弾かせ、中臣烏賊津使主を沙庭(神命をうけたまわる人)として祈禱を行ったという日本書紀の故事が語源と伝えていきます。

しかしながら、古文書等ににおいて「こと」と称したことは確認できず「きん」あるいは「ぎぬ」と記されていることから、別の語源があったとも考えられますが、それについては不明です。

【上対馬町芦見】

『津島記事』によると、芦見とは「驚見」の訛りであり、語源として神功皇后が新羅征伐に向かう際、この地で吉凶を卜おうと、鷲を射落としたためという故事を引用しています。

ただし『上対馬町誌』は、この説を否定し、「アシ」が古語で「低湿地」という意味があること「ミ」が「水」と連想できることから、水辺の低湿地ということの場所の特徴が語源となったと指摘しています。

【上対馬町一重】

『津島記事』によると、湾の入口が広く風を避ける場所がない

ことから、一夜の舟泊りは出来ても両夜(二夜以上)の停泊には不向きということで、一夜浦と呼ばれるようになったと伝えていきます。「一夜」という表記は江戸時代の前半まで使われていたことが古文書から確認できますが、江戸の中期以降は「一重」と統一されています。

【上対馬町小鹿】

『津島記事』によると、神功皇后が新羅から戻られた際、小鹿あたりで兵糧が底をついたため、皇后が山に入り狩りを行い、大きな牡鹿を獲り、兵達に振る舞い、この鹿の角を筑前の志賀神社に奉納したという伝説が語源となつていと伝えていきます。



上対馬町五根緒

つしま図書館情報

つしま図書館 ☎0920(52)3900

●つしま図書館の日 8周年イベント開催!!

日時：10月18日(土) 13:00~15:00まで

場所：交流センター4階視聴覚室(図書館入り口)

DVD上映や読み聞かせなど予定しています。入場は無料です。

どうぞ来館ください。

■ 休館日

10月の休館日 ■ つしま図書館の日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

今月のおすすめ新着本

『すごい!塩レモン使いこなしレシピ』

柳澤 英子/著

塩レモンは、塩麴に次ぐブームと話題の手作り調味料。レモンを塩で漬けただけ。なのに味わいは、想像以上のまろやかな旨みと爽やかさ。毎日のごはんに使えるレシピ揃い!

『星星の火』

福田 和代/著

警視庁の刑事・上月千里と、警視庁通訳センターの通訳捜査官・城正臣。独身寮で同室だったふたりが、違法パチスロ店を摘発するため東京・池袋の雑居ビルに向かう。

『99歳ちりつもばあちゃんの幸せの道しるべ』

たなか とも/著

ちりつもばあちゃんが、孫のともちゃんに日々の暮らしの中で幸せを見つけながら、人生をより良く生きるための知恵を教えてください。

『絵巻平家物語』全9巻

木下 順二/著

武士として、はじめて日本の政治の中心にのりだし、平家繁栄のきっかけをつくった平忠盛。平家物語の“殿上のやみ討ち”の話をもとに、忠盛の知恵と勇気をえがく。

『なぞ解きミステリー さんすう刑事ゼロ』

NHK/編

学習まんがなのに本格ミステリー!? 読めば、生活の中のあるゆることが、数学的に考えられるようになる。大人気番組をもとにした、まったく新しい算数コミック!

『花のき村と盗人たち』

新美 南吉/著

花のき村を訪れた盗人たち。かしらが盗みの指導をしながら村はずれで待っていると、童から子牛をあずかります。穏やかに善の心を説いてくれる、心洗われる絵本です。